

離島での持続的な畜産経営の実践

(沖縄県：八重山郡竹富町)

取組項目

飼養管理	良質堆肥の生産	堆肥の広域流通	国産飼料生産・利用	有機畜産	その他(※)
○			○		

(※) 畜産GAP、農場HACCP、労働環境の改善、消費者理解の醸成 等該当するものを記入

<取組主体について>

- ・所在地 : 沖縄県八重山郡竹富町黒島
- ・HP等 :
(竹富町HP) <https://www.town.taketomi.lg.jp/about/kuroshima/>



放牧風景

<取組について>

○ 概要

- ・表土が乏しいため、環境の影響に左右されやすく作物の生産が安定しないことや農地の原野化、耕作放棄地が問題化。
- ・農地保有合理化事業等により原野化した農地を買い戻し、草地整備事業で既存の原野や未利用地等と併せて採草地や放牧地に造成するなど、自給飼料生産基盤の整備を積極的に実施。
- ・特に、スタビライザー工法などの新しい技術導入により、岩盤土壌を優良農地に転換し、牧草地を整備。
- ・周年放牧により、飼料の生産・給与や家畜排せつ物処理の省力化を図っている。
- ・黒島の農業青年で組織する「黒島農業青年クラブ」を中心に、草地管理技術と粗飼料自給率向上を目的に、「黒島牧草コンテスト」を開催し、牧草の成分分析等を関係行政機関と連携し行った結果、草地管理に対する意識向上が図られている。
- ・収量の減少する冬季の対策として、暖地型牧草（ジャイアントスターグラス）の草地に寒地型牧草（イタリアンライグラス）を追播し、年間を通して安定した収量が確保できる作付体系の確立を目標に、黒島農業青年クラブを中心に取り組んでいる。
- ・町が遊休地の活用のため、地主、畜産農家等との調整に積極的に関与。

○ 成果

- ・自給飼料生産基盤の整備により、肉用牛の飼養頭数は昭和47年の672頭から令和2年の2,800頭余に拡大。
- ・1戸当たりの飼養頭数は、本土復帰当時の9.7頭から令和2年の52.8頭へと5倍以上に経営規模が拡大。
- ・毎年2月に開催される「牛祭り」には、人口の10倍近くの観光客が訪れるなど、全国的にも「牛の島」として認知され、畜産及び観光の振興に寄与（R3～R4年は新型コロナで中止）。



スタビライザー工法による草地造成



イタリアンライグラスを追播した牧草地



牛祭りの様子